

第1号議案

公益社団法人土岐市シルバー人材センター 令和4年度事業報告

令和4年度は、新型コロナとの戦いは続いていましたが、ワクチン接種が進んだことやウイルスが変異して弱毒化したこと等により、ウイズコロナ社会に移行しました。また、社会活動も活発化し、国の旅行支援の効果もあり交流人口も増えて、少しずつ日本に活気が戻ってきたことが実感できる年となりました。その反面、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や原油高、円安などの影響で物価が上昇し、市民生活を圧迫するような状況でもありました。

全国シルバー人材センター事業協会は、新型コロナウイルスの影響で会員数が減少したことを受け、令和4年度の第2次100万人計画の目標会員数をコロナ禍以前の令和元年度の人数とする見直しを実施しました。その結果、土岐市シルバー人材センターの目標会員数は243人となりました。

こうした社会情勢のもと、シルバーの理念である「自主・自立、共働・共助」を念頭に中・長期計画の目標である会員拡大に引き続き取り組んだ結果、大変厳しい社会状況でしたが、会員数を増やすことができ、前年度に比べ4人増の237人となりました。特に女性が多く入会していただき、対前年度比5人の増となりました。しかし、残念ながら目標の243人は達成することはできませんでした。

安全就業については、事故・ケガ防止の啓発を進めるとともに、低速回転の刈刃を導入し会員に貸与した結果、飛び石による事故を大きく減らすことができました。しかし、140万円を超える賠償額の事故が発生したこともあり、損害賠償保険に加入することが難しい状況になってしまいました。とにかく1件でも事故を減らしていく必要があります。

事業実績は、請負・派遣とも前年度に比べ延ばすことができました。会員数237名、請負・委任による受注件数1,976件、契約金額107,963,454円、就業延人員20,574人日でした。前年度と比べ、会員数は4名の増、受注件数で13件の増、契約金額4,331,708円の増、就業延人員257人日の増でした。派遣事業では、契約金額30,933,666円、就業延人員5,529人日、派遣収益3,021,386円で、前年度と比べ、契約金額2,933,666円の増、派遣収益63,811円の増、就業延人員は455人日の増となりました。

今後も土岐市シルバー人材センター発展のため、会員及び職員一同でコロナ感染に細心の注意を払いながら、会員拡大と就業開拓、安全就業に取り組み、当センター事業の一層の推進に努めて参ります。

主な事業実績は次のとおりです。

① 会員数	237名
② 就業延人員	20,574人日
③ 契約金額	107,963千円
④ 受取事務費	7,582千円
⑤ 就業率	75.5%
⑥ 派遣事業就業延人員	5,529人日
⑦ 派遣事業契約金額	30,933千円
⑧ 派遣事業受託収益	3,021千円

1 普及啓発事業

- ① 公共・民間等現場に出向いて、より一層の理解と信頼を得られるよう努めました。
- ② 入会者説明会を定期的に月2回開催した他、希望者の要望に応じて臨時説明会を通年で実施しました。
- ③ 機関紙「シルバー土岐」を年1回市内に全戸配布し、シルバー事業の紹介、会員募集の呼びかけを行いました。また、会員募集チラシを、全戸配布で2回行いました。
- ④ 「親子育児教室」、「高齢者サロン」のチラシを年1回市内に全戸配布した他、「高齢者サロン」は開催地区を対象に町内回覧し、市民の方への普及啓発に努めました。
- ⑤ ホームページを活用し、入会促進、受注拡大に努めました。

2 会員の自主・自立と意識の高揚

- ① 役員の責任分担性の徹底を図り、担当分野についての把握・指導に努めました。
- ② コロナ禍により前年度に引き続き、地域集会やボランティア活動などの行事が中止となり、例年の活動はできませんでした。

3 安全就業対策

- ① シルバー事業において最も重要な課題であり、コロナウイルス感染に十分注意しながら、特に就業時の健康状態は自分自身で十分把握していただき、事故・怪我防止の啓発に努めました。
- ② 安全はすべてにおいて優先されることを会員一人ひとりに周知し、安全就業の徹底を呼びかけました。

- ③ 安全パトロールを9回、全29か所で実施し、作業方法等について安全指導を行いました。また、低速回転の刈刃を導入した効果もあり、前年度に比べ事故件数を半分以下の9件とすることができました。
- ④ 県連合主催の安全就業推進大会に参加しました。また、全会員対象に就業職種ごとに、職群班別講習会を実施しました。

4 自主財源の確保

- ① 事業運営費収入の根幹である運営費補助金の確保、コロナ禍の厳しい中、事業費収入の確保を公共、民間、家庭に理解賛同を得られるよう周知し、就業の確保に努めました。
- ② 派遣事業について、公共・民間ともに働きかけ収益の充実に努めました。

5 社会奉仕活動の推進

- ① 各地域での奉仕活動の実施
今年度も前年度と同様すべて中止となりました。
- ② 地域の行事、公共団体等への事業参画として参加していた、土岐市社会福祉協議会主催の福祉まつりは、コロナのため前年度に続き中止となりました。

6 新規開拓事業の推進

多様なニーズに対応できる体制づくりを行い、新たな就業機会の確保に努めました。

- ・機関紙「シルバー土岐」にて情報提供及び会員募集をしました。
- ・就業相談を開催し、就業を希望する会員に適宜対応しました。

7 適正就業の推進

- ① 事業理念、就業条件等、会員に平等な就業機会を提供するため、全会員に対して意向調査を行い、会員が希望する職を提供できるようローテーション就業を実施し、ワークシェアリング（分かち合い就業）の精神で会員の長期的・継続的就業の解消や未就業会員の解消を図りました。
- ② 法令遵守の観点から労働者派遣法に基づいた適正就業を目指し、派遣実施事業として努力しました。
 - ・県連合会主催の安全就業推進大会に参加しました。

8 介護予防事業及び福祉施設の後方支援となる事業

高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で生活できるよう地域での生活を総合的に支援するため、コロナ感染防止に努めながら高齢者サロンを開催しました。

- | | | | | | |
|-------|------|--------|---------|------|-------|
| ・泉地区 | 6回開催 | 15名参加 | ・土岐津地区 | 6回開催 | 31名参加 |
| ・駄知地区 | 6回開催 | 30名参加 | ・肥田地区 | 6回開催 | 2名参加 |
| ・妻木地区 | 6回開催 | 23名参加 | ・下石地区 | 6回開催 | 4名参加 |
| 合計 | 36回 | 105名参加 | 動員会員数延べ | 144名 | |

9 子育て支援事業

① 託児・家庭での育児支援、産前産後の支援、育児教室等の支援事業の推進を図り、地域の若い親さんの多様な要望に応えられる子育て支援を目的に、コロナ感染防止に配慮しながら育児支援、産後の支援、育児教室、子育て相談等の支援事業を行いました。

- ・0～3歳児を対象に5月～翌年3月の第3水曜日に親子育児教室を開催しました。親子延べ51名の参加がありました。
- ・小学生を対象に8月の第3水曜日の夏休みを利用して「夏休みふれあい教室」を開催しました。7名の参加者がありました。

② 子育て応援サロンをシルバー人材センターの事務所2階で開催しましたが、参加者はありませんでした。

10 高齢者世帯生活サポート事業

高齢者が在宅生活を営む上で、若い世代であれば簡単な家事でも支援が必要な高齢者にとってはままならない、ちょっとした日常的な作業を、元気な高齢者（会員）が有償でサポートすることで、住み慣れた地域で安心した生活ができるようワンコイン事業を実施しました。

市役所が、高齢者等生活支援事業の一つとして、一人暮らしで収集場所までごみ等を排出することが困難な高齢者等に対しごみの戸別収集を行う「さわやか収集事業」を開始したので、ワンコイン事業を利用していた方が移行され、利用者は減少しています。

- ・ワンコイン100円 12世帯 441回
- ・ワンコイン500円 7世帯 114回

11 高齢者世帯見守り事業

高齢者の多くができる限り住み慣れた地域、自宅で暮らすことを望んでいます。センターでは、安否確認や声かけが必要な高齢者に対して定期的に訪問する高齢者世帯見守り事業を実施しました。

- ・見守り 1世帯 22回